# 理工学メディアセンターニュース

No.117
NOV.2008

"Information and Media Center for Science and Technology" Newsletter

## 11 月の開館時間

無印：通常開館　　月 - 金 8:45-21:30 ／ 土 8:45-20:00
◯：閉館

| SUN | MON | TUE | WED | THU | FRI | SAT |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | 1 |
| 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 |
| 9 | 10 | 11 | 12 | 13 | 14 | 15 |
| 16 | 17 | 18 | 19 | 20 | 21 | 22 |
| 23 | 24 | 25 | 26 | 27 | 28 | 29 |
| 30 | | | | | | |

＊来月以降の開館予定は次のウェブページでご覧いただけます。
http://www.scitech.lib.keio.ac.jp/service/calendar/
＊塾内各地区メディアセンターの 11 月の開館日程は次のウェブページでご覧いただけます。
http://www.lib.keio.ac.jp/schedule/200811.pdf

## 目次


お知らせ　2

日本語テキスト (Books on Japan)・語学辞書「ハンディタイプ」コーナー
ラウンジ資料が充実しました
11 月 8 日（土）（創立 150 年記念式典開催日）は開館
雑誌記事索引集成データベース -- 明治から現在まで
日本人ノーベル賞受賞者 (2008) の研究論文紹介

コラム　4

電子ジャーナルを取り巻く問題（2）　ー電子ジャーナルの契約ー
新着図書紹介　『翻訳 ナノバイオテクノロジー～未来を拓く概念と応用～』

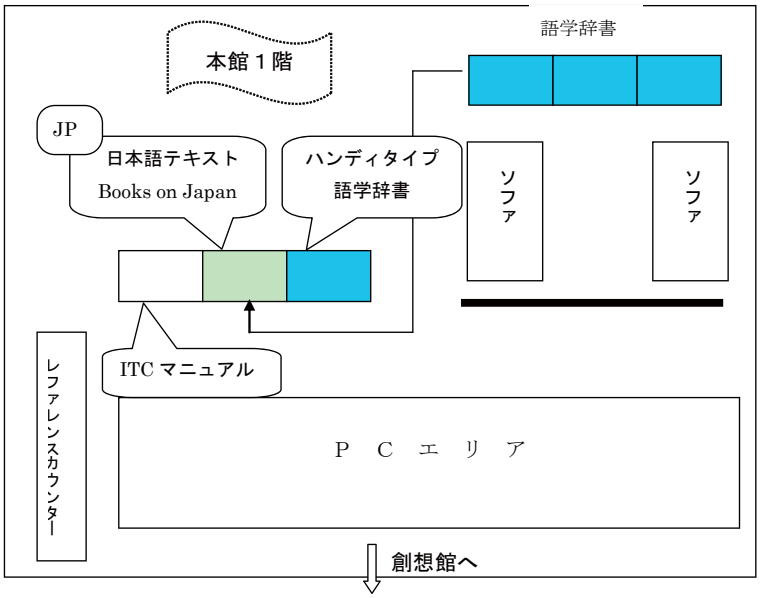
# お知らせ

## ＊ 日本語テキスト (Books on Japan)・語学辞書「ハンディタイプ」コーナー

本館１階ＰＣエリアの隣に、日本語テキスト (Books on Japan) とハンディタイプの語学辞書を集めたコーナーを新設しました。

日本語テキスト (Books on Japan) の書架には、日本語を習得するためのテキスト・辞書・日本語能力検定本など約 80 冊が置いてあります。OPAC で検索すると、請求記号は「ＪＰ」と表示されます。貸出もできますので、日本語を学習したい留学生の方、日本語教育に興味のある方はどうぞご活用ください。

語学辞書「ハンディタイプ」コーナーには、これまで奥にあった語学辞書の書架からよく使われるハンディなものをピックアップして置きました。語学辞書は、創想館１階・地階、本館２階閲覧室にもあります。あわせてご利用ください。




## ＊ ラウンジ資料が充実しました

当センター入口カウンター脇のラウンジに置かれた「ラウンジ資料」をご存知ですか。理工系総合誌や時事週刊誌、経済誌などの最新刊を、手軽に読んでいただけるように並べています。このたび本館１階新着雑誌のコーナーから数誌を選び「ラウンジ資料」に加えました（下記※印)。オーバーナイト貸出（平日 18:00 ～、土曜 16:00 ～の貸出手続きで、翌開館日の 10:00 までに返却）もできます。お時間のあるときにぜひお立ち寄りください。

《ラウンジ資料一覧》

AERA，文藝春秋，週刊ダイヤモンド，Economist，Harvard Business Review，金融ビジネス，Motor Magazine，National Geographic( 日本版 )，Nature( ※ )，Newsweek( 日本版 )，Newton，日経アーキテクチュア ( ※ )，日経ビジネス ( ※ )，日経 Linux，日経パソコン ( ※ )，Science( ※ )，Scientific American( ※ )

## ＊ 11 月 8 日（土）（創立 150 年記念式典開催日）は開館

11 月 8 日（土）（創立 150 年記念式典開催日）は、通常どおり 20 時まで開館します。但し、当日は、式典への参加者以外の日吉キャンパス立ち入りは禁止となっていますのでご注意ください。

## ＊ 雑誌記事索引集成データベース -- 明治から現在まで

「雑誌記事索引集成データベース」が新たにご利用いただけるようになりました。

既存の明治・大正・昭和前期の雑誌記事索引データベースに、国立国会図書館作成の NDL-OPAC 雑誌記事索引の内容を追加したもので、明治初期から現在まで、日本（旧植民地なども含む）で発行された日本語の雑誌記事が検索できます。総合雑誌など全国誌のみならず、地方で発行された雑誌も対象です。当センター Web サイト「データベース」(http://www.scitech.lib.keio.ac.jp/dblist/index.html) の“論文の検索”から、または以下の URL から直接ご利用いただけます。

「雑誌記事索引集成データベース」http://zassaku-plus.com/

keio.jp（慶應義塾共通認証システム）を通してのご自宅等からのリモートアクセスも可能です。

## ＊ 日本人ノーベル賞受賞者 (2008) の研究論文紹介

2008 年のノーベル賞が、日本人の 4 氏に授与されます。受賞理由の研究成果に関する論文を電子ジャーナルでご一読ください。矢上のネットワーク環境からご利用いただけます。

・ノーベル物理学賞：小林誠氏、益川敏英氏（「CP 対称性の破れの起源発見」）
http://ptp.ipap.jp/link?PTP/49/652
(Kobayashi, M. and Maskawa, T. “CP-Violation in the Renormalizable Theory of WeakInteraction” .Progress of Theoretical Physics 49(2) (1973) pp. 652-657.)

・ノーベル物理学賞：南部陽一郎氏（素粒子の「自発的対称性の破れの発見」）
http://prola.aps.org/abstract/PR/v122/i1/p345_1
(Nambu, Y. and Jona-Lasinio, G. “Dynamical Model of Elementary Particles Based onan Analogy with Superconductivity. I” , Physical Review 122(1) (1961) pp. 345-358.)

http://prola.aps.org/abstract/PR/v124/i1/p246_1
(Nambu, Y. and Jona-Lasinio, G. “Dynamical Model of Elementary Particles Based onan Analogy with Superconductivity. II” , Physical Review 124(1) (1961) pp. 246-254.)

・ノーベル化学賞：下村脩氏（「緑色蛍光たんぱく質（GFP）の発見と発光機構の解明」）
Shimomura, O.; Johnson, F. H.; Saiga, Y. J. Cell. Comp. Physiol. 1962, 59, 223
（↑こちらの文献は山中資料センターからコピーの取寄せをいたします。1 枚 10 円）

コラム

## ＊ 電子ジャーナルを取り巻く問題（2） －電子ジャーナルの契約－

〈電子ジャーナルの価格付け〉

電子ジャーナルというイノベーティブな商品が登場したとき、まだその利便性は明らかではありませんでした。そのため出版社は、電子ジャーナルの普及のために、まずは冊子の購読者に無料で電子ジャーナルの提供を始めます。まずは、商品を使ってもらいその良さを実感してもらうための「冊子購入＋無料電子ジャーナル」の登場です。お試し期間の後、図書館とその利用者が電子ジャーナルの利便性を理解するようになり、いよいよ電子ジャーナルは商品として売り出されるようになります。しかし、当時は電子的なものへの信頼は高くなかったため、出版社は「冊子購入＋電子ジャーナル利用料」という契約モデルを提供するようになります。あくまでも冊子の購入を基本として、追加料金を払えば電子ジャーナルも利用できるというものです。その後、電子的なものへの信頼感も増し、電子ジャーナルの利便性は明らかとなり、図書館にとっても利用者にとっても電子ジャーナルはなくてはならないものになりました。

現在では、電子ジャーナルで利用できるタイトルの冊子の利用は激減し、電子ジャーナルで読めなければ利用しないという事態も生じつつあります。現在の契約モデルの基本は、「電子ジャーナル購入＋印刷体の料金」、つまり、電子ジャーナルの契約を基本として、印刷体が必要な場合には追加で料金を支払うというものです。さらに、出版社は、「電子ジャーナルオンリー」の契約に対してディスカウントを提供することで、冊子の販売から電子ジャーナルのみの契約へと誘導しています。

慶應でも、支出を抑えるために電子ジャーナルオンリーの契約に移行できるものについては教員の皆様のご理解をいただき、すでに移行しています。

電子ジャーナル主体の契約モデルにおける電子ジャーナルの価格は、その図書館が「これまでに出版社に対して支払ってきた額」です。つまり、「前年度の支払額」をベースにプラスしていくというものです。こうした価格付けは現在でも続いており、図書館の予算が頭打ちとなっている現在、一方的、継続的値上がりが大きな問題になっています。

〈電子ジャーナルの契約形態〉

電子ジャーナルの価格が毎年値上がりしていくことについて、出版社側は、掲載論文数の増加と、電子ジャーナル提供のためのプラットフォームの料金、サービス改善のための研究開発費の積み上げの結果であると説明しています。こうした電子ジャーナルの値上がりに対して、図書館と出版社双方のメリットを探る契約として登場したのが、ビッグディールと呼ばれる契約形態です。

ビッグディールのもとでは、図書館は単館によるだけでなく、コンソーシアムを形成して契約を行っています。コンソーシアム契約により、出版社側は複数館との契約を一括して行うことができる、図書館側はスケールメリットを活かして交渉を有利に行うことができると考えられました。慶應でも、理工学単独から全塾での契約、さらに私立大学のコンソーシアムでの契約を行うなどで対応しています。

契約対象となるのは、出版社が提供する複数タイトルの電子ジャーナルパッケージで、従来のような個別タイトル毎の積み上げ額よりもディスカウントした価格で提供されました。その結果、出版社としては複数タイトルの一括契約と一定額の契約が担保され、図書館としては低価格で提供タイトル数の確保、

あるいは増加を実現することができました。しかし、パッケージによる購入のため、図書館による自由なタイトルの追加やキャンセルはできなくなってしまいました。このことは、図書館員による選書ができなくなったことに加え、不要タイトルのキャンセルによる柔軟な調整ができなくなったことを意味します。

さらに、複数年契約を解除しないことを条件としてプライスキャップ（値上げ率の上限：現在は 5 ～ 8%）が設定されることで、図書館としてはキャップの範囲内の支出増に抑えることができ、出版社としては将来数年間にわたる収益を確保することが可能になっています。しかし、結局はキャップの範囲内での値上げが毎年継続して行われることで、図書館の電子ジャーナルに対する支出は増加しつづけています。

〈購読規模維持の縛り〉

たとえば、A 社との契約の場合、2008 年の全塾での契約で、約 1 億 8,000 万円を支払っているとします。翌年の契約では 1 億 8,000 万円をベースに，プライスキャップの範囲内での値上げがなされることになります。ここで，値上がりした金額を支払うことができないため，パッケージに含まれるタイトルのうち、利用の少ないタイトルを調査し、約 700 万円分をキャンセルするとします。もともとの試算は、これまでの購読実績（購読規模を維持してきたこと）に基づいたプライスキャップを適用して算出されたものでしたが、700 万分をキャンセルすることにより，購読規模維持の条件をクリアできないことになります。そのため，新たな係数が適用され，これまでよりも利用可能タイトルが少なくなるにもかかわらず、700 万円分のカットどころか、もともとの試算よりも余計に支払わねばならなくなるという仕組みになっています。

**購読規模維持条件付の支払額算出方法**

購読中止（購読規模維持の中止）に対するペナルティが課されるために、
実質的に支払い金額は増加する

〈契約モデルの例〉

契約の条件は、出版社によって異なります。以下は一部の出版社の例です。

■ Elsevier

前年度の購読規模（支払額）維持が条件。購読規模を維持すれば一部タイトルの変更は可能。前年度の購読規模を維持しない場合には、新たな基準により算出しなおされるために大幅な値上がりになる。2009 年のコンソーシアム向けプライスキャップは 5%。

■ Wiley-Blackwell

2007 年に合併。2008 年度までは、Wiley はコンソーシアム参加館の全購読誌をパッケージとした契約。そのため、2008 年までにコンソーシアム内での重複をみながら、慶應の購読誌を減らしてきた経緯がある。

一方、Blackwell は出版社の全タイトルを対象としたパッケージ契約だった。

合併後の 2009 年契約は、Wiley, Blackwell それぞれの大学ごとの購読実績をベースにしたパッケージ契約に変更された。2009 年契約は、2008 年購読誌をベースとし、非購読誌を追加契約するモデルになる予定。これまでコンソーシアム内での重複によりキャンセルしてきたタイトルへの対応が必要となる。

■ Springer

2005 年度の購読実績をベースに算出。コンソーシアムの参加館数による割引を適用。出版社の全タイトルのパッケージが対象。3 年間の継続契約を条件としてプライスキャップは 4.7%。

〈図書館員の役割の変化〉

従来、図書館の役割は、資料をどのように選んで収集し、それらを体系・組織化して提供するかであったといえます。したがって、図書館員に求められたのは、情報の流通や学問分野に対する知識に基づいた資料の選定能力、利用者行動を理解し分類・組織化して提供基盤を構築・整備する能力、利用者ニーズを汲み取りサービス開発し提供する能力などでした。しかし、電子ジャーナル契約の登場により、こうした伝統的な能力だけでなく、営利出版社との交渉など、ビジネスへの理解も新たに必要になっています。交渉力などビジネスに関わる能力の開発は、図書館員である私たちの今後の課題です。

（レファレンス担当　上岡　真紀子）



## ＊ 新着図書紹介 『翻訳 ナノバイオテクノロジー～未来を拓く概念と応用～』

（原書『Nanobiotechnology II ～ more concepts and applications ～』）
Chad A. Mirkin[ ほか ] 編、丸山 厚監訳　エヌ・ティー・エス　2008 年

ナノテクノロジーは、広汎な分野にわたり大きな成長と発展をとげてきました。ナノテクノロジーの派生分野であるナノバイオテクノロジーは、化学、物理学、生物学、材料科学、医学、その他いろいろな工学系統からの実績成果を踏まえ、今後も各方面での大きな期待を担っています。ライフサイエンスの向上のみならず私たち人類を取り巻く環境、エネルギー、食料など種々の問題を解決するうえで、ナノバイオテクノロジーはこれからの科学技術領域の根幹となることでしょう。

本書では、ナノテクノロジーとバイオテクノロジーの融合による新たな本領域の可能性について、「人工スイッチ設計」「新しいセンサーの創出」「医療技術への応用」「新しい触媒技術」「分子ナノモータ」「タンパク質ベースの機械的デバイス」「細胞による発電デバイス」など、様々なキーワードを盛り込んで詳しく解説しています。この分野の現状と将来を概観する上でより多くの方々に活用していただける内容となっています。材料科学や生命科学を学ばれている方々にとっても視野を広げる上で貴重な一冊となることでしょう。

（請求記号：579.9@N7@1　配架場所：本館 2 F 一般図書）

（図書担当　田中　美枝子）

◆発行：慶應義塾大学理工学メディアセンター
E-mail：riko-info@lib.keio.ac.jp　Home Page：http://scitech.lib.keio.ac.jp
電子版のご利用はこちら→ http://www.scitech.lib.keio.ac.jp/guide/publication/mcnews.html